

歌舞伎を詠む

歌舞伎界最近三年間（解体・建て替え期間中）の動き

昭和42年卒

小泉芝雲（正行）

5代目歌舞伎座は平成25（2013）年4月2日に春雨の降る中、賑々しく新開場を迎えました。思えば4代目歌舞伎座が平成22年4月30日に閉場し、解体工事、建て替え工事を行い、無事平成25年2月26日に建物竣工を迎える約3年の間には、歌舞伎界にはいろんな出来事がありました。特に大きな出来事として次の3つが注目されます。

まず第1は名優5人の相次ぐ死で有り、2番目が3人の襲名興行であり3番目が特に生前の18世勘三郎丈のコクーン歌舞伎や平成中村座における歌舞伎初心者及び若い世代向けに解りやすい歌舞伎公演における活躍ではないかと思われまふ。

それらの出来事についての簡単な背景とその際に詠んだ80句ほどを書いてみようと思ひます。

1 名優5人の相次ぐ死

平成22年4月末に4代目歌舞伎座が閉場されると共に、翌5月からは歌舞伎座の仮櫓である新橋演舞場を中心として歌舞伎上演が行われまふ。

従って平成23年正月の歌舞伎座での初春芝居は上演されなかつた訳で、その年は何となく寂しい年の初めでした。

歌舞伎座に飾海老なし卯年かな

そこで平成23年の初春芝居は新橋演舞場で行われたのですが、その2日目に当たる1月3日に「寿式三番叟」をご子息鷹之資と踊る予定であつた人間国宝5世中村富十郎が81歳で突然亡くなつたのです。前年9月の秀山祭では元気に「願人坊主」を踊り、息子が20歳になれば富十郎の名を継がせたいのでそれまでは頑張ると言われていたのに残念なことでした。私の印象に残っているのは平成21年5月の傘寿の祝いとしてご子息鷹之資（当時10歳）を義経とし「勸進帳」の弁慶を朗朗としたせりふ回しで演じられた姿です。又歌舞伎研究会三田会の「芸談を聴く会」（平成20年10月開催）でも弁慶の読み上げをたつぷりと聞かせて頂きまして、思わず「天王寺屋」と掛け声をかけたことが思い出されます。

傘寿にて舞ふ弁慶の汗にじむ

そして又同じ年の10月には、人間国宝で日本俳優協会会長を務めていた女形の7世中村芝翫が83歳で亡くなりました。

この2人の名優の死については平成24年1月出版の拙著「歌舞伎を詠む」にて触れているのでここでは詳細は省略いたしますが、その中で芝翫丈を花に譬えて次のように詠んでいます。

名女形王道飾る芝櫻

顔見世や今に少なし古径顔

更に平成24年2月には91歳と現役役者では最高齢である人間国宝の名女形4世中村雀右衛門が死亡しております。

同丈については拙著「歌舞伎を詠む」の中では、八重桜に譬え

七重八重桜の精や雀右衛門

と詠み、拙著を雀右衛門丈に贈呈いたしましたところご丁寧なお礼状を頂き、「雀右衛門の会」の新年会誌にこの句を掲載頂きまして、追加注文を頂いたのには大感激致しました。

このような事があった直後の死亡でしたので、私自身もとてもショックを受けました。

そこで次の様な句を詠みお悔やみ申し上げました。

雪降るや京屋雪姫大往生

以上人間国宝の3人の名優は、戦後歌舞伎界にて大貢献された方々であり、年齢のことを考えれば本当にご苦勞様とお悔やみ申し上げたいと思います。

だがしかし役者の死はこれでは終わらず、一時体調を崩したものの回復し長帳場の「コクーン歌舞伎」や「平成中村座公演」で活躍していた18世中村勘三郎が、平成24年12月5日に56歳という若さで突然逝ってしまったのには、中村屋ファンならずとも歌舞伎界は大きなショックを受けました。

勘三郎丈を偲び、家門の角切り銀杏葉を詠み込んだ句として

勘三郎逝きて銀杏葉狂い散る

顔見世や最辰役者の姿なし

顔見世や親獅子逝くも子奮迅

勘三郎丈の事については、既に皆様ご承知の通りで今更述べるまでもないでしょうから、ここでは死の直前平成23年11月から24年5月まで浅草にて開催された「平成中村座」における勘三郎丈の舞台姿を詠んだ句を揚げておきます。

勘三郎粋を演じる皐月かな

又同丈を花に譬えて詠んだ句として

花銀杏熟す愉しみ勘三郎

更にまだ悲しい出来事は続きました。平成25年の年が明け、いよいよ4月からは新歌舞伎座の柿葺落公演が具体化し、4月～6月の3か月間の出し物と配役が決まり、広告用パンフレットが配布されたばかりであったのに、なんと2月3日（節分の日）の夜半に12世市川團十郎の訃報をラジオのニュースで知り愕然としたのです。

長いこと癌と戦いながらも病気を克服し、舞台を勤めてこられただけに、新歌舞伎座には出演されるのではないか、特に6月の「助六」は楽しみだなと思っておりましてのにこんなことになり、残念でたまりません。

團十郎助六遣らず二月逝く

平成22年4月の「歌舞伎座さよなら公演」の掉尾を飾るにふさわしい歌舞伎十八番「助六所縁江戸桜」のあの颯爽とした姿がもう一度見られるとおもっていたのに。

團十郎丈は私と当に同時代の役者であり、新之助一海老蔵一團十郎と襲名し、成長されてきた姿をみてきただけに、身内を亡くしたような気持ちで何とも遣り切れなくなりました。

私が本格的に歌舞伎を観始めた昭和38年は、ちょうど父上11世團十郎が前年に襲名を終えたばかりの時です。素晴らしい舞台を見せてくれ一挙に歌舞伎好きになった年でした。その時から、偉大な父親を亡くした歌舞伎界の中心人物は、今日まで歌舞伎界を背負い成田屋を背負い頑張ってきたのです。決して器用な役者ではないでしょうが、努力家であり真面目な華のある役者で多くの人々に愛されてきた花形役者であったと思います。

同丈を詠んだ多くの俳句が有りますので少し集めてみました。

海老蔵の太郎冠者振り初笑い 久松 澄子

海老蔵といへば弁慶秋芝居 丹羽 晴代

歌舞伎座に海老蔵を見て小正月 本間 幸一

(九代目團十郎銅像除幕)

秋天下十二代目が綱を引く 戸板 康二

息子海老蔵によれば、團十郎丈が死の直前次の様な辞世の句をパソコンに残していたと
のことで、2月27日の「青山斎場」における偲ぶ会の席で披露されました。

色は空 空はくうなり 時なき世へ

この句は恐らく「色即是空 空即是色」の心境で詠まれたものと思われます。

私も「團十郎丈を偲ぶ」として次の様な句を詠んでみました。

巨星随つ梨園揺るるや春一番

節分や時なき世へと旅立ちぬ

早春や時なき世へと飛び六法

春の雨成田屋偲ぶ涙かな

又團十郎丈の元気な頃の舞台姿を詠んだ句も改めて掲げてみました。これは主に「歌舞伎を詠む」に記載されていますので説明は省略いたします。

花に譬えて

團十郎歌舞伎の華や大牡丹

助六の啖呵響くや初芝居

成田屋の睨み千両初芝居

花の雨蛇の目に受けて團十郎

海老蔵の怪我回復から謹慎も解け、8カ月ぶりに舞台復帰した際の成田屋親子が夏芝居で頑張った時の句

七月や成田屋親子の勸進帳

成田屋の掛け声響く夏芝居

参考までに平成25年6月の「助六」は、海老蔵が助六を、菊之助が福山のかつぎを演じるようになったようですが、実に團十郎、海老蔵の親子共演は短い期間でして残念でありません。

2 襲名興行

前述したように名優5名との相次ぐ悲しい別れがありましたものの、一方では3人の御目出度い襲名興行が執り行われました。

3代目中村又五郎襲名

平成23年9月の新橋演舞場に於ける「秀山祭」にて3代目中村歌昇が3代目中村又五郎、その息子中村種太朗が4代目歌昇を襲名いたしました。平成22年の秀山祭で中村歌六・歌昇兄弟が屋号を「萬屋」から「播磨屋」へ復しており、3代目歌昇が播磨屋所縁の又五郎をそして種太朗が父親歌昇の名を4代目として継いだのです。

新又五郎は襲名公演として昼の部では「寺子屋」の源蔵（松王丸は吉右衛門）、夜の部では「車引」の梅王丸（松王丸は吉右衛門、桜丸は藤十郎）を見事に演じました。

(H23. 8. 22 浅草お練り)

夏盛り襲名お練り三代目

又五郎名の蘇る九月かな

秋麗藤・吉・又の「車引」

6代目中村勘九郎襲名

平成24年2月には、同じく新橋演舞場にて2代目中村勘太郎の6代目中村勘九郎襲名公演が開催されました。勘九郎の名前は、18世勘三郎の前名で同丈が5代目として46年間にわたりその名を大きな名跡にしたものであり、その名を長男の勘太郎が継ぐ訳で、今にして思えば父親勘三郎の生前に襲名していてよかったなと思われます。

勘太郎は、昭和62年に初舞台を踏み、父18世勘三郎は勿論の事、父方の祖父17世勘三郎、母方の祖父7世芝翫始め多くの先輩に会い多くの薫陶を受けて芸道に精進してきている。襲名公演出し物としては、昼の部は新古演劇十種（菊五郎系のお家芸）のうち「土蜘蛛」の土蜘蛛の精、夜の部は新歌舞伎十八番（九代目團十郎の得意芸）のうち「鏡獅子」の獅子の精を演じています。

因みに勘太郎としての最期の舞台は「関の扉」の関兵衛であり、いずれも祖父、父勘三郎が演じていない曾祖父初代中村吉右衛門なり6代目尾上菊五郎の当たり芸を取り上げているのが面白い。私は、勘太郎時代の歌舞伎座で演じた「車引」の梅王丸がとても印象に残っており次の様な句を詠みました。

早梅や紅隈映ゆる梅王丸

花道を梅は飛び行く大宰府へ

今回の襲名興行の際の「土蜘蛛」では、

土蜘蛛の隈取り凄し余寒かな

尚、2月の勘九郎襲名興行に際しての句としては、次のように詠んでいます

春立つや六代目継ぐ勘九郎

襲名の口上冴ゆる勘九郎

勘亭の勘九郎文字春踊る

2代目市川猿翁・4代目猿之助・9代目中車襲名

初代市川猿翁・3代目段四郎の50回忌追善として所謂澤瀉屋一門の襲名公演が、新橋演舞場にて平成24年6・7月の2カ月に渡り行われました。

スーパー歌舞伎を確立した歌舞伎界の異端児と言われた3代目市川猿之助が自らの名前を甥の亀治郎に4代目として譲り、我が子香川照之を新しく歌舞伎界に入れ所縁ある9代目市川中車を名乗らせ、更に照之の長男（政明）を團子として初舞台を踏ませたのです。

亀治郎は既に若手花形として大活躍しており問題ないでしょうが、中車を名乗ることとなった香川照之がいかなる芝居を演じるかは興味の持たれるところです。

亀治郎その名惜しむや四月尽

此の襲名興行については、前年の9月に記者発表されたのですが、その時3代目猿之助は昭和38年の自らの襲名興行によせて初代猿翁が読んだ句

翁の文字まだ身にそはず衣かへ

初代猿翁

の返歌として

翁の文字身に添ふまでは生きぬかん

二代目猿翁（3代目猿之助）

と詠んで決意を示したのです。

襲名狂言として、6月は新猿之助が「黒塚」、「義経千本桜」、スーパー歌舞伎「ヤマトタケル」中車が新歌舞伎の「小栗栖の長兵衛」を、そして7月には2代目猿翁が「山門」の真柴久吉を演じたのです。この「山門」には猿翁が育て上げてきた若き澤瀉屋一門の役者（右近、笑三郎、月乃助、笑也等）も出演いたしました。

澤瀉の花咲き揃ふ演舞場

浜木綿や二隻の船出見守りて

澤瀉屋スーパー歌舞伎や七変化

3 十八世勘三郎の大活躍

「平成中村座」公演

前述した18世勘三郎が、主体となって平成23年11月から24年5月まで隅田川沿いに仮設ではあるが江戸情緒を活かした「平成中村座」を建て古典歌舞伎を中心に上演し

大成功を収めました。仮設小屋の場所は、待乳山聖天に近く又昔の芝居町であつた猿若町に近く当に中村屋にとって縁の深い場所と云っていいでしょう。

出し物も時代物、世話物をうまく組み合わせ若い人や歌舞伎初心者に解りやすい内容の物とし、人気が高かったようです。特に公演期間中の4月22日には世界一の高さ（634m）を誇るスカイツリーがオープンし、花見や三社祭とも重なり多くの人が浅草を訪れることとなり、浅草の街おこしにも貢献したのではないのでしょうか。更に五月には「髪結新三」「め組の喧嘩」の上演で粋な勘三郎の姿が観客を大いに沸かせ、三社祭の神輿も舞台に上がり一段と盛り上がりました。

浅草寺参りし後の初芝居

春料峭隅田河畔の芝居小屋

浅草や芝居賑はふ桜時

幕間や浅草名物桜餅

せり上がりスカイツリーや花舞台

花の路助六探す花川戸

春うらら小山三人形お守りに

皐月飾る黙阿弥狂言色褪せぬ

浅草に勘三郎観る万太郎忌

幕間に冷やし甘酒中村座

浅草や芝居人気に三社祭

4 その他の出来事

- ① 平成22年1月には海老蔵が思わぬ暴力事件に巻き込まれ大怪我をし、約8カ月休演致しました。
- ② 歌舞伎座建て替え中の平成23年5月、24年5月の二回の「團菊祭」は、江戸から初めて浪花の「松竹座」に移り、関西では絶大なる人気を誇る和事師の坂田藤十郎が加わり盛大に執り行われました。

江戸の粹浪花に咲きし五月かな

團菊に藤花添えし皐月かな

- ③ 24年7月には、玉三郎が人間国宝に指定され、更に25年2月にはフランス芸術文化勲章最高章である「コマンドウール」が授与されました。

因みに十二世團十郎も平成19年にこの賞を受賞しております。

初芝居いよよ華やぐ玉三郎

千両や色気芳し玉三郎

- ④ 24年8月には、染五郎が舞台から奈落に転落し大怪我をしました。

- ⑤ 10月には、7世松本幸四郎の追遠公演として所縁の演目「勸進帳」を幸四郎、團十郎が昼夜交代で弁慶、富樫をそれぞれに演じ好評を得ました。

勸進帳読み上げたるや秋の声

冷まじし山伏問答聞き惚れる

- ⑥ 25年2月には大怪我も無事快復した染五郎が、日生劇場で「吉野山」を福助と演じ、同年3月には演舞場での松緑、菊之助等との若手花形歌舞伎にて初役の「大蔵卿」「二人椀久」を演じました。

- ⑦ 同じ3月には海老蔵がル・テアトル銀座にて「三月花形歌舞伎」と称し、座頭となり「夏祭浪花鑑」「高坏」を演じました。

- ⑧ 更に勘九郎は弟七之助と共に「赤坂ACTシアター」で「赤坂大歌舞伎」と称し父勘三郎の当たり芸「怪談乳房榎」を演じ、新猿之助は御園座で襲名公演として「黒塚」「川連法眼館」を演じる等、各劇場で次世代を担うべく若手が中心となり大活躍し、きたるべく5代目歌舞伎座開設に備えて芸を磨いております。

花形の競い合ひたる弥生月

5 そして5代目歌舞伎座竣工

前述した様にいろんな出来事がありましたが、新歌舞伎座は平成25年2月26日に竣工し、3月4日には歌舞伎座櫓揚げが執り行われ、同月27日には歌舞伎役者63名が参加して銀座花道の「お練り」が、そして28日には手打ち式が行われました。

春近し柝の音待たるる木挽町

染め幕に春風はらむ大櫓

春雨や銀座花道花役者

そして念願の5代目歌舞伎座の柿葺落興業初日を4月2日（大安）に迎えることとなったのです。今回はこの段階で筆を止めることとし、4月からの歌舞伎座柿葺落とし公演以降については、いずれまたの機会といたしたいと思います。

柿葺落春の雨降る初日かな

6 番外編

ここに番外としてこの3年間の間に私が関係した歌舞伎関係の出来事を2つほど記載しておきたいと思います。

一つは平成24年7月に開催された歌舞伎研究会三田会主催の「せりふ名人会」であり、もう一つは平成25年1月14日に開催された歌舞伎研究会三田会OGの西川充さん主催の「東京充の会」での歌舞伎科白の朗読です。

第5回「せりふ名人会」にて「寺子屋」の朗読実施

三田「つるのや」にて義太夫付きで「寺子屋」（寺入りより）を朗読致しました。その際の状況を句に詠んでみました

せりふ会配役きまる梅雨晴間
遠花火聴きつ科白の稽古かな
暑きなか稽古指導や八十路翁
稽古後もんじゃ焼きにて飲むビール
白扇を叩き科白の間を取らん
夏帯をきりり締めてやせりふ会
幕切れの「いろは送り」や秋近し

「東京充の会」にてせりふ朗読

歌舞伎研究会OGである西川流師範西川充さんから東京における踊り発表会にて歌舞伎研究会OB有志による「歌舞伎の科白朗読」を依頼され10名が参加。会場が国立能楽堂と言うビッグなところであったことから参加者は大喜び。出演時間は約三十分でしたので当にほんのさわりの部分を朗読しただけでしたが、素晴らしい思い出となりました。出し物は「勸進帳の富樫の出」、「七段目の由良之助とおかるの絡み」、「助六・揚巻の啖呵」「浜松屋弁天小僧の啖呵」、「稲瀬川勢揃いの場」そして「山門」でした。橋懸りを通り本舞台に出る時の足の感触が良く、又音響効果も素晴らしく科白の声がいつも以上に美しく響いたようです。

松羽目を背に初春せりふ会

足袋越しに底冷え覚ゆ能舞台
橋懸り長く冷たき道なるか
能舞台呀ゆる富樫の初名乗り
紅一点名乗る赤星台詞呀ゆ

なお、西川充氏は、平成23年度文化庁芸術祭優秀賞（受賞作品長唄「旅」の舞踊）を受賞されており、毎年京都を中心に国際的にも舞踊面で活躍しながら、京都のPRに尽している頼もしい後輩であります。

（充さんの「静と知盛」より）

源平の盛衰踊る舞初め

知盛の見得呀えたるや橋懸り

最後に前記に直接関連ありませんが、この三年間に詠んだ歌舞伎関連句を記載して筆を置きます。

義士の日や舞台のうへに源吾をり
芝居はね熱爛一本蕎麦で呑む
團十郎二百十日を押戻せ
芝居はね芝居談義や長き夜
まだ早し團菊爺や敬老日
色変へぬ松を後ろに大弁慶
冬日影築地に眠る義士一人
顔見世やはねて銀座のママの顔
だんまりのなかに大見得冬牡丹
目出度さを飾り立てたる演舞場
二枚目の役者に似たり寒卵
安宅関みちのくはまだ霞なか
新派碑に寄り添ひ咲くや白き梅
梅咲くも楽しさ一時おみつかな
梅咲いて昔公語る琵琶の曲
啓蟄やスッポン口に仁木あり
とんぼ切る若き役者や芽立ち時
木の目和尚に芝居談義かな
春の夜や歌舞伎もシャネルも十八番

（「銀座百点」700号記念俳句の佳作句）

以 上

参考までに4代目歌舞伎座の解体から閉場から5代目歌舞伎座建設期間中の3年間の歌舞伎関連の出来事を羅列しておきます。

平成21年1月～22年4月（16か月間）「歌舞伎座さよなら公演」開催

平成22年4月30日 閉場式

平成22年6月 コクーン歌舞伎「佐倉義民伝」上演

平成22年11月25日 11代目海老蔵暴力事件

平成23年1月3日 人間国宝5代目中村富十郎死去（享年81歳）

平成23年6月 コクーン歌舞伎「盟三五大切」上演

平成23年9月 秀山祭にて3代目中村又五郎襲名興行

平成23年10月10日 人間国宝7代目中村芝翫死亡（享年83歳）

平成23年11月～24年5月 浅草にて勘三郎による「平成中村座歌舞伎公演」開催

平成24年2月 6代目中村勘九郎襲名興行

平成24年2月 人間国宝四代目中村雀右衛門死亡（享年91歳）

平成24年6～7月 澤瀉屋3代襲名興行

平成24年6～7月 コクーン歌舞伎「天日坊」上演

平成24年7月 坂東玉三郎「人間国宝」へ

平成24年8月27日 市川染五郎舞台から奈落へ転落

平成24年10月 7世松本幸四郎追遠公演として「勸進帳」上演

平成24年11月 仁左衛門体調不良で演舞場を途中休演（代演：松緑）

平成24年12月5日 18代目中村勘三郎死去（享年56歳）

平成25年2月3日 12代目市川團十郎死亡（享年66歳）

平成25年2月19日 玉三郎「コマンドウール」を受賞

平成25年2月26日 歌舞伎座タワービル竣工

平成25年3月4日 歌舞伎座櫓上げ

平成25年3月27日 銀座花道役者お練り

平成25年3月28日 歌舞伎座手打ち式

平成25年4月2日 歌舞伎座柿茸落初日